

1. 評価結果概要表

平成20年 12月 27日

【評価実施概要】

事業所番号	2072400845		
法人名	特定非営利活動法人まんてん		
事業所名	グループホームかぞく		
所在地	長野県上伊那郡中川村大草4631-9 (電話) 0265-88-3077		
評価機関名	株式会社福祉経営サービス研究所 サービス評価推進室		
所在地	長野県松本市深志3丁目7番17号		
訪問調査日	平成20年12月14日	評価確定日	平成21年1月19日

【情報提供票より】(20年 11月 7日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 1月 5日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9人
職員数	11人	常勤8人	非常勤3人 常勤換算0人

(2) 建物概要

建物構造	木造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,900円	その他の経費(月額)	700円
敷金	無		
保証金の有無(入居一時金含む)	無	有りの場合償却の有無	無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000円

(4) 利用者の概要 (11月 7日 現在)

利用者人数	9名	男性	2名	女性	7名
要介護1	3名	要介護2	2名		
要介護3	3名	要介護4	1名		
要介護5	要支援2				
年齢	平均 79歳	最低	66歳	最高	92歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 南向診療所
---------	------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

かぞくでは、理念の“グループホームが地域に馴染み、地域と支えあえる環境を創る”を目指し、村の中心部に開設した当初から積極的に地域との関係を創るよう取り組んできた。4年を経過し、地区行事への参加、ボランティアを受け入れるだけでなく職員が地域へボランティアとして参加する、気軽に子どもも大人も立ち寄ってもらえるような環境づくり、定期的開催する運営推進会議等々の中で、災害時の相互協力体制ができたことは大きな成果である。また、運営方針に“いつも家族のように楽しく生活していける場でありたい…”とあるが、職員みんなが、常に利用者主体でゆっくりと好きなように暮らしてもらえるように支援をしており、人対人としての関係が暖かい雰囲気の良いホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	<p>前回評価で課題となった重度化や終末期に向けた方針の共有については、実際に2人の方の看取りを行っており、職員間での方針の共有、家族との話し合いはできている。さらに、方針や経過等記録することを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価を全員で行い、職員会議でまとめている。自己評価をする段階から、自分達の仕事を振り返り、前向きに改善にとりくんでいる。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地区役員、民生児童委員、包括支援センター、家族会代表が参加して、2ヶ月に1回開催している。行事や利用者の現況、自己評価について等報告を行い意見をもらっている。行事の時期についての意見が出て検討し、家族会を11月に開く等改善してきた。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>年4回のホーム便りの発行、毎月の利用料請求に添えた個々へのお便り、日々様子がわかるアルバム等で、利用者の状況を伝え安心してもらっている。また、家族会や面会時に要望等を聞いたり、意見をいれるポストを設置する、苦情受付の担当者を明記し掲示するなどしている。出された意見は、記録に残しどのように処理したのかまで記入し報告している。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>毎月、小学生がホールや居室のカレンダーを交換に来てくれたり、保育園児等が夕方まで遊んでいくなど役場や保育園、小学校、病院等にも近く気軽に立ち寄れる場所にあり、日常的な交流がある。春祭りへの参加、村の福祉祭りでは職員がボランティアで参加したり、利用者の作品を出品するなど、地域にとけ込み、地域の人々の見方も変わってきている。今年は、災害時の地域協定を結び、災害時の相互協力の体制ができた。</p>

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの開設前から、地域との関わりのなかで家族のように生活できる場をという思いでこの地に開所している。3つある理念の一つに“グループホームが地域に馴染み、地域と支えあえる環境を創る”とある。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念は、職員事務所の見やすい場所に掲示されており、日頃の介護について気付いたことをカンファレンスで話し合っている。また、日頃から地域との関係をつくっている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	毎月小学生がホールや居室のカレンダーを交換に来てくれる、保育園児等が夕方まで遊んでいくなど日常的な交流がある。春祭りへの参加、村の福祉祭り際には職員がボランティアで参加したり、手芸品を出品するなど、地域にとけ込み地域の人たちの見方も変わってきている。特に今年は、災害時の地域協定を結ぶことができた。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	1年目から定期的に評価を受けて、改善に努めている。今回も自己評価を職員全員で行い、職員会議でまとめている。自己評価をする段階から自分達の仕事の振り返りを行い、改善に取り組んでいる。		

グループホームかぞく

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>2ヶ月に1回、地区役員、民生児童委員、包括支援センター、家族が参加して開いている。行事や現況、自己評価についての報告等行っている。行事の時期についての意見が出て、検討して改善するなどしてきた。また、今年の防災訓練では、提案を受け地区の消防団にも参加してもらった。</p>		
6	9	<p>市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>1ヶ月に1回は、出向いて話をしている。役場の職員も、様子を見に顔を出してくれる。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>年4回のホーム便りの発行、毎月の請求書等と一緒に、ホームの様子と個人の様子を書いたお便りを同封して報告している。また、日々の様子がわかるように、個人用のアルバムを作って見てもらっている。家族会は、年3回程開いて一緒に行事を楽しんでもらっている。</p>		
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>意見や苦情受付の担当者がわかるように掲示したり、ポストを設置している。訪問時、家族会、推進委員会等に口頭で要望などが出たら、書類に書き、どう処理したかまで記入していくことになっている。</p>		
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>ほとんど開設当初から職員が大きく変わることがないので、影響はない。</p>		

グループホームかぞく

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年度当初に、わかる範囲で研修の情報を得て、計画的に受講ができるように促している。また、各団体で開かれる研修の情報も知らせている。業務で参加した研修については、復命書を記入し、全員に回覧している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	飯島町にある法人内のグループホームとの交流、村内の連絡協議会、地域の中の事業所連絡会に参加するなど行っている。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人や家族等と面接して、安心して来てもらえるようにしている。見学できる時には、ホームを見てもらえるように配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	五平餅や味噌作りを教えてもらったり、歌を習ったり、食事やお茶の時間を一緒に楽しんで過ごしている。訪問時にも、歌の得意な利用者が中心になってみんなで歌を楽しむ様子が見受けられた。		

グループホームかぞく

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のシートを利用し、家族や本人から、あるいは日々の生活の中で情報を集めて整理し、一人ひとりの思いや意向の把握に努めている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>日々の記録用紙のファイルにケアプランがすぐ確認できるように綴じてあり、毎日ケアプランの実施状況のチェックを行い、記録内容も変化があれば記入するようにしている。ケアカンファレンスは月に1回開き、そこで利用者一人ひとりについて話し合いを行い計画を作成している。家族等にも、話を聞いている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>カンファレンスにおいて話し合った結果をもとに、担当者が中心となって3ヶ月に1回見直しをしている。見直しをしたときは家族の理解を得ている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>通院の支援や、看取りを行った際には医療を受けながらの支援を行うなど、要望に添って柔軟な対応をしている。</p>		

グループホームかぞく

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>希望に添って、かかりつけ医に受診できるように支援している。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームとして見取りまで行うことになっており、職員も方針は共有している。家族等から希望は聞き、実際に2人の方を見送っている。その時、主治医や近くの診療所の先生と協力体制をとって指示を仰ぎ、職員が不安にならないよう説明し、職員体制も考慮して看取ることができた。</p>		<p>実際に、看取りを経験し、方針も職員間で話し合っている。家族の希望も聞いて、添うようにすすめている。今後、方針の文章化や重度化に向けた意思確認書を作成するなど、経過の記録をしていくことによって、さらに質の高い内容になっていくことを期待したい。</p>
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>尊厳の重視、守秘義務については、徹底して話している。訪問時も、優しい言葉かけ、その人にあった話し方がされていた。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員の業務の流れ、業務分担の目安としての日課表はあるが、一人ひとりの希望や状況にあわせて支援している。食事時、レベルが低下して手で食事する人を見守りながら援助したり、高齢で日中寝ている利用者に様子を見て起きてもらうなどの支援がされていた。</p>		

グループホームかぞく

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	テーブルを拭く、野菜を洗う、切る、盛り付ける、食器あらいなど、準備や片付けはそれぞれできることをやってもらっている。食事は職員も一緒に話をしながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日午後に入浴ができるように準備をして、希望や体調に合わせて入浴してもらっている。レベルが低下した利用者には二人で介助する、湯船に入れられない場合はシャワー浴を行っている。現在、レベル低下で湯船に入れられない利用者の入浴について、検討している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	歌、畑仕事、調理、配膳、食後の片付け、掃除、縫い物など、それぞれにできることや好きなことをやって過ごしてもらっている。村の福祉祭りに縫い物のできる利用者と一緒にねずみの軍手人形を作って出品した作品が、玄関等に飾ってあった。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	買い物や散歩など、希望を聞きながら行っている。散歩ができなくても、庭に出て畑をみたり、庭で過ごせるようにベンチ等が用意されている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間以外の施錠はやっておらず、玄関はチャイムが取り付けられている。		

グループホームかぞく

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>今年8月31日に、避難訓練を行い地区の消防団から実際の救助方法の指導を受け、有事の時は団員がどう対応するか考えてもらった。また、運営推進会議でかねてから検討してきた災害協定を地区と結ぶことができ、災害時には相互で協力しあう体制ができた。</p>		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>	<p>食事量、体重の管理もできており、献立については栄養士に見てもらいバランスの取れた食事に配慮をしている。また、刻み食やとろみをつけるなど、状態にあわせた食事の支援を行っている。</p>		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	<p>居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>10畳の和室があり、炬燵が置かれ、そこでお茶を飲んだり、横になったり居心地のよい空間になっている。テーブル用のイスもゆっくり座れる物を使っている。花やクリスマスの飾りなどがあり、季節を感じる事ができる。居間は、はき出しになってベランダにつながり陽射しが十分に入り、床暖で冬は暖かい。陽射し対策として、カーテンやブラインドで対応しており、夏はよしずも使っている。</p>		
30	83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居時にベッドやタンス等を持ち込んでもらい、カレンダーや写真、飾り物等々それぞれに飾るなどして、居心地よく過ごせるよう配慮している。</p>		

は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票(様式1)を添付すること。